

○3番(枝 史子君) 改めまして、こんにちは。議席番号3番、枝史子です。傍聴席の皆様におかれましては、お忙しい中、足をお運びくださいます、ありがとうございます。

それでは、議長により発言の許可をいただきましたので、通告に従い一般質問を進めてまいります。私の今回の一般質問の内容は、町立学校再編整備計画素案についてです。今年の1月に町民の皆さんに町立学校再編整備計画素案が示され、そこで初めて2中学区における猿島小、森戸小、二中の3つの学校を1つにまとめた義務教育学校の設置計画というものが明らかになりました。私は、各学区の説明会にお邪魔して説明を聞かせていただいたのですが、学校統廃合という地域にとっての一大事に対して、住民の皆さんもまだまだ実感が湧かないというか、どんなことが起こるのかという想像が追いついていない状況なのではないかと感じました。

もちろんこれまで学校の在り方検討委員会から各関係者の方がお集まりいただき、検討を重ねてきたことは承知しております。しかし、以前からそのような話合いの場が持たれていたということは、あくまで私が議員として、その情報を知っていたからであって、議員になっていなければ、恐らく知らなかったのではないかと思います。ですので、住民の皆さんにとって、この素案の発表がもしかしたら「青天のへきれき」だったかもしれないと考えると、より丁寧な説明が必要なのではないかと考えました。そこで、この学校統廃合の計画について質問いたします。

まず、1点目です。説明会での内容の確認になってしまうかもしれませんが、この学校再編整備計画について、今までどのように進めてきたのかということ、現在までの進捗状況をお尋ねします。

次に、2点目です。この学校再編整備計画は、どのように推移していくのかという今後の進め方についてお尋ねします。

以上、2点について、1回目の質問を終わります。

○議長(倉持 功君) ただいまの町立学校再編整備計画素案についての質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長 忍田暢男君登壇〕

○教育長(忍田暢男君) 皆様、改めましてこんにちは。枝議員のご質問にお答えをさせていただきます。

現在取り組まれております境町立学校の再編整備計画、これからの学校の在り方についての検討につきましては、平成29年3月に町議会のほうの適正化配置調査特別委員会から、この児童生徒数の減少期における今後の学校の適正配置、またその中には魅力ある学校づくりとしての小中一貫校の検討を合わせまして検討するよう提言をいただいたところでございます。

そういった状況の中で、令和に入りましたけれども、令和3年の7月に有識者によります境町学校の在り方検討委員会を設置させていただきました、約1年間、6回にわたりまして、

子供たちの今後の教育環境について検討をいただき、またその間に実施をいたしました住民アンケートなども踏まえまして、令和4年5月に教育委員会に提言書を提出していただいたところでございます。そして、その提言を受けまして、町教育委員会といたしまして、適正規模、適正配置の具体的な方針等を内容といたします学校再編整備計画について策定をするため、まず町民の皆様方には素案という形でお示しをさせていただきまして、昨年12月8日の町議会議員の皆様への説明をはじめといたしまして、12月22日から各地区代表行政区長、また23日の町立小中学校長、そして1月12日には町立小中学校のPTA会長さんへの説明を行ってまいりました。

その後、1月24日から1月31日の期間に、全町民の方を対象といたしまして、小学校区域ごとに地区説明会を開催し、境地区では17名、長田地区19名、猿島地区56名、森戸地区55名、静地区18名、延べ165名の参加をいただいたところでございます。説明会では、主に義務教育学校設置までのスケジュールですとか、それから統合した後の学校施設の跡利用等についてのご質問をいただいたところございまして、この素案の内容につきましては、おおむねご理解を得られたものというふうに考えているところでございます。

また、この素案につきましては、パブリックコメントを実施させていただきまして、町ホームページやお知らせ版に掲載をし、1月16日から2月14日までの30日間意見を募集させていただき、668名の方に閲覧をいただきました。その中で1名の方から意見が提出され、子供たちの将来を考えると、学校再編の計画は必要であるところのご意見をいただいたところでございますので、これまでの経過につきましてご報告を申し上げたいと思います。

続きまして、2点目の今後の進め方についてのご質問にお答えさせていただきます。今後につきましては、境町立学校再編整備計画を案として、町議会または教育委員の皆様にお諮りをし、年度内に本計画を決定させていただきたいと考えております。決定された後には、令和5年度より前期の計画に掲げました猿島小学校と森戸小学校の統合、併せて境第二中学校との9年間一貫しました教育が行えます義務教育学校の設置に向けて、仮称ではございますけれども、統合準備委員会などを設置いたしまして、準備を進め取り組んでまいりたいと考えております。

また、学校再編による義務教育学校の開校につきましては、前期の取組期間の最終年度でございます令和9年度を目標に準備を進めてまいりますが、今後この義務教育学校の基本計画の策定や、それに基づきます施設整備内容等が明確になってきた段階で、それらを踏まえ、議会にもご相談をさせていただきながら、必要に応じてスケジュールは変更してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

枝史子君。

○3番（枝 史子君） ご答弁ありがとうございます。先ほどのご説明で、平成29年からの長い期間をかけて周知をされてきたということは承知いたしました。ただ、残念ながら、私の周りなのですけれども、二中学区に住んでいても、ちょっとまだこの計画を知らなかつ

たという方がいらっしやいまして、あと説明会はあったのは知っているのですけれども、この間の1回きりでもう終わってしまって、この後は説明会の予定がないということを知らなかったという方のちょっと意見も聞いたのです。ほかにも学校に通っているお子さんが上のお子さんでいらっしやるのですけれども、マチコミメールで住民説明会のことはいただいていたのですけれども、下のお子さんが入っている「コドモン」のほうには住民説明会のメールがなかったということで、その親御さんが保育園に通っているお子さんが結局その計画が進むと、その新しい学校に入ることになるのに、そういう保育園のお子さんとかにもしかしたら伝わっていないのではないかというような心配の声もいただいています。情報をそのように伝わりにくいというか、なかなか情報を発信しても受け取りにくい方もいらっしやるかと思うのですけれども、情報は伝わってこそだと思うので、できるだけ細かなお知らせをしたほうがいいのではないかと私考えました。

あと、また子供たちの意見というのがなかなか反映されていないのではないかなというのが個人的な感想としてありまして、この間の説明会でもお子さんがほとんど見当たらなかったのです。それなので、大人だけと限定しているわけではないと思うのですけれども、大人だけでなく、子供の意見、子供の心というか、それを調べる、調べるというか、聞くような住民説明会というか、アンケート、親子一緒にとというような感じで聞けるというような説明会もできないかななんて思ったのですけれども、それについて町の見解をお聞かせいただけたらと思います。

○議長（倉持 功君） 町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、枝議員さんのご質問にお答えします。

もう少し議員さんなので、大きな視点で見たいと思います。なぜならば、我々はどうしてもやろうとか、頭ごなしにやろうなんて全然やっていないのです。なので、僕は2012年に春日学園、もう10年以上前です。議会でも行ったのです。そのときに春日学園という学校が、小中一貫校がつくば市にできて、すごい学校だと言って、この中でも多分何人か一緒に見に行っていたと思うのです。その当時は、もう小中一貫校とか、中高一貫校、それから幼小中一貫校がまだあまりない頃で、今、見回すと、例の平成の合併以降、河内も今回3つの学校を閉校して1つにしたとか、もうどこもそうやってやっていたのです。

うちの町は住民の主体性に任せようということで、森戸の議員さん、猿島の議員さん、森戸小、猿島学区なものですから、自分たちの意見でどうだろうというのをずっと聞いてきたのです。議会からは、議会全体としてやっていただいた際に、やはりもうそろそろ考える時期だろうという答申書もいただいているのです。それに基づいて町は動き出したということなので、動き出し方の段階として、すてっぺんに町はこうするからこうなのだよということではないのです。なので、枝さんが逆にどうしたいのか、これを丁寧に行って進めていきたいのか、それともこれやめたいのか、どっちなのだ。我々は別に押し通すつもりはないので、現状で、今現実に森戸小学校、猿島小学校の子供たちがもう昔から比べても1クラス22人とか、29人とかになっているわけです。なので、森戸と猿島の人たちはもう分かって

いるわけです。もう1クラスしかない、どうしようと、うちの子たち通うのにも危ないと、危ないから車に乗せてくれないか、2キロないのだけれども、スクールバスに乗せてくれない、内門新田の人たちは言ったりするのです。そういうことまで全部含めて、ここで手を入れなかったら、もう間に合わないだろうと思って、こういう今回は教育委員会をお願いをして、大変な中始まったのです。なので、どうしたいのだと、この子供たちを。そして学校を。もう老朽化で40年以上たっているわけです。では、あれ建て直すのですかとか、全部のことを考えて、要は政治って10年先、20年先のことを考えなくてはならないのです。

なので、インターチェンジ周辺もそうでしたよね。インターチェンジ周辺、今はああやって立ち出しましたけれども、僕が就任する前はインターチェンジは開発しないインターと言われていたのです。なぜならば、200人以上の地権者がいるから、その人一人一人に意見聞いていてできないだろうと。だから、結局やらないと言ったのです。やらない、町はやらないと判断したのです。僕は絶対やったほうが良いと思ったのです。歩きました。歩いたら9割以上の方がやるべきだと。そのとき言ったことは、一人一人の意見を聞くのも大切かもしれないけれども、ゼロか100だよと、やるかやらないかだよと。やるかやらないか。町はどっちでもいいのだ。やるかやらないか。なぜやるか。雇用のため、さらには税収増のためです。少子高齢化でどんどん高齢化が進んでいって、お金がなくなるわけです。当時境町は借金で、一番借金の多い自治体でしたから、県内で。そんな中でもっと借金が増えていったら、皆さんの負担が増えるわけです。これではいけないというので、さらにはあそこの農家の方もいっぱいいました。何十年も伝統的に農家をやっている。先祖代々の土地だと、だからなくせないのだと、長井戸だから分かりますよね。そういう人たちも説得したのです。ゼロか100かでどっちかしかない。地権者の皆さんが嫌だと言えやらないと、町はそう覚悟をしてやっていたのです。その結果が今100%皆さんが同意いただいて、ああいう結果になって、今、立ち出して、その税収がこの3年後、4年後、令和9年には4億円毎年入ってくるようになるわけです。

これも一緒に、猿島地区、それから森戸地区、今のままいくと子供たちいなくなって、ほとんどいいですよ、引っ越せる人は。長田小とか境小に引っ越せばいい。もしくは違うもう市に引っ越してしまえばいい。そういう状況が今起きているのです。もう立ち行かないからやりましょうと言って始まったのです。なので、町としてはどちらでもいいという言い方を言ったら申し訳ないですけども、いや、そのまま存続するのだと、あのままで。地元の人と言うならそれでいいですよ、正直な話。でも、そうではなくて、いろんな人に聞いたら、やっぱりやってもらったほうが良いと。

さらには、2キロ、今回だから結局通学路のスクールバスも僕になってから、その2キロ圏外は全部運べるようにしたわけです。なぜならば、今までは分校というのがあったのです。分校が統合される代わりに、分校の人たちにだけスクールバスをとというのが、要はあめ玉みたいなやつで、あめ玉だったのです。でも、今、そういうわけにいかないです、もうだって子供が1人で歩いているのですから。そういうのを助けるために、では2キロ以外はスクー

ルバスにしようと言って変えたのです、お金かかっても。

今回もそういうことなのです。今、猿島小もどんどん減っている。森戸小学校もどんどん減っている。二中だってそう。一中はまだいいです。一中は3クラスで、今度4クラスになるの、3クラス。4クラスになるのだから、何か分からないけれども。多いのです、一中学区は。結局二中学区がどんどん人がいなくなってしまう。でも、学校の運営としてはいい運営しているのです。それをやっぱり守るためには、先生たちも合わせて働き方改革もしながら、1か所にしたほうがいいだろう。そして、そこに通う親御さんたちもスクールバスを2キロ以上は出してあげれば済む、済むというか、安心だろう。そういう考えの下にやっているものですから、それを例えばいろんな意見あるでしょう、いろんな意見。一個一個丁寧に聞いていたら、申し訳ないけれども、多分できることもできなくなってしまう。そういう思いの中でやっている。

さらには、僕ら思っているのは、これが皆さんからではやりましようとなっても、5年かかるのです、でき上がるまでに。その5年の中でこうだとちゃんと説明していけば、住民の皆さんって分かると思うのです。だって、歩いた感じだと、そのほうがいいと言う人のほうが多いのだもの。要は猿島と森戸1校にしてもらって、何か特殊な教育、いい教育を入れてもらって、小中一貫校にしてもらって、特色のある学校にもらえば、住む人も増えるのではないかと、そういう人のほうが多いのです。ああ、スクールバスになるなら、そっちのほうが安全でいいやと、結構そうやって言ってくれる人多いのです。なので、やっぱり細かいところは大枠を決めて、もしやるならやるで大枠を決めた後に細かいこの5年間かけてつくる間の話は煮詰めていく、地域の方々も。さらにはその親御さんたちも。そういう話なのではないかなと。だから、今からもう煮詰めて、「はい、やりますよ」で、煮詰まった話をしていくのではなくて、何でもそうです。ここで方向性を決めていかないとならないから、今、教育委員会は出したのであって、これでやりますよ、これでどうだということではなく、住民の皆さんの意見を聞きますよと言って出しているのです。だから、全然そこが違うのです。だから、これしかないからというのはその人の言い分であって、なくても意見は出せるわけです、今だって。意見出せます、枝さんに言えばいいのだもの。ねえ、鈴木さんに言えばいいのだもの。ここにいる議員さんに言えばいいのだもの。我々に言えばいいのだもの。だから、ここで終わりという感覚がやっぱり僕はちょっと違って、普通にだってやっている中で改善していけばいいのだから、丁寧な意見も、子供たちに聞きたければ子供たちに聞いたっていいだろうし、なので、町として、それから議会としてどうするのだということを決めてやっていかないと、できることもできなくなってしまうし、そのできなくなったことによって、どうなるかというのは見えていますから、結局老朽化の問題にしても何にしても、子供たちが危なくなるわけでしょう。どんどん少なくなるわけでしょう。住む人たちもここでは住んでいられないと言って引っ越してしまうわけでしょう。そういうことをやっぱり先々を考えて政策って打たなければならないので、「ここどうなっているんですか、これどうなっているんですか」と言うよりは、やっぱりどうしたいのだということを決めて

からやらないといけないのではないかなと僕らは思っていて、今は僕らは皆さんの意見をここまで聞きますよと言って聞いただけであって、住民の地元の人たちが「いや、反対だ」と言えば別にやる必要はないので、そういうことなのです。だから、何か上から町がこう決めました。こうやりますよと押しつけているようなイメージがあるのかもしれないのですが、町は一切そういうイメージはないので、そこはちょっと違うのかなと。

だから、やっぱり説明会に参加できなかった。何ができなかったのだとか、逆に言えば言い訳です、申し訳ないけれども。だって、もしどうしても言いたければ行くし、でも言いたくない人もいるわけではないですか。それは僕らが聞けばいいし、なので、これからもしそういう形で方向性が決まったならば、この5年の中でしっかりとどういうふうな課題があって、どういうところを拾ってあげれば改善できるのだ、そういうことをやっていくのが政策、政治であって、ガチャガチャ、ガチャガチャ、その最初に「これどうなんだ、どうなんだ、どうなんだ」と、そういうことではないのではないかなと僕は思っているので、そこはぜひ逆にどうしたいのかなと、枝さんがこう思っていて、こうなのだと、反対なら反対でもいいと思うのです。でも、それは地元の人たちが本当にそう言っているのかと、地元の人たちが言っているのなら、町は別にやる必要ないですから、お金かけてわざわざ新しく造って、スクールバスも出す必要ないわけですから、そこに特色のある授業も入れる必要ないわけですから、でも何か歩いた感じだと、そのほうがありがたいという親御さんのほうが多いから、そうなのかなと。

例えば、1つ言うと、沖縄のさっき質問していましたけれども、沖縄に修学旅行やろうと思ったのです。非常に挨拶しなかった子供たちが民泊行って帰ってきたら、挨拶するようになったとか、親御さんが喜んでいたので。今まで皿洗いも手伝いもしなかった女の子が、帰ってきたら私の手伝いするのだと、すごく喜んでるわけです。ああ、ではこれだったら沖縄の民泊に全員連れていったら、みんないい子になるだろうと思って提案したのです。アンケート取ってもらったら、6割以上反対なのです、沖縄に行くのが。お金出してあげると言っているのですよ、町が。ああ、だから今やっていません。コロナになってしまったからやっていないのではないです。6割の人が反対だから、ではやらなくていいやと言って、今、京都行っているわけです。そういうことなのです、町って。

だから、何が何でも上からいいことだからと押しつけたりはしないので、そこはちょっとよく聞く耳があるかないかという、ちゃんと聞く耳を持ちながらやるし、全くそんな1人の意見であっても、「ああ、そんなのはいい」とやっていないですから、そこはぜひ分かっていたいただければいいのかなと思いますし、さっきの「コドモン」の話もそうです。実際に「コドモン」ってどこが使っているのだ。

〔「コドモン」はおおぞらとひまわり〕という者あり〕

○町長（橋本正裕君） おおぞらとひまわりだけ。

〔「いや、あとはコビーさんも……」という者あり〕

○町長（橋本正裕君） コビー、そうすると3つなのです。マチコミメール使っているのが

いずみとか、みんなマチコミなのです。だから、多分気づかなかっただけなのかもしれないし、そういったところもあるので、あと実際に今いるお子さんたちのところで多分流してしまったのかもしれないですから、そういったところは逆に丁寧に、「コドモン」も次から流してくださいと言えば、「ああ、じゃ「コドモン」も流すか」というだけの話なので、そんなに難しい話ではないので、やっぱり大卒はどうするのだという話からいっているんで、ぜひそういうところを考えて質問していただくと助かるというふうに思っています。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

枝史子君。

○3番（枝 史子君） ご答弁ありがとうございます。先ほどのお話を聞いていて、町が大きな目でというか、何年後とか、5年後とか、そういうものを考えて、このように進めているというお話で理解しました。

ただ、先ほども繰り返しになるかもしれないのですけれども、そこにもうちょっと子供たちの思いというか、一時的になるかもしれないのですけれども、小さな学校から大きな学校に行くことによる不安とか、そういうことで子供たちが例えば行き渋りになってしまったりとか、そういうようなことがあるというのも実際にほかの学校統廃合を行ったところでは聞いたりとかしているのです。それで、大きい学校不安だなというふうにもしかしたら思ってお子さんもいらっしゃるかもしれないのですけれども、そのような調査というか、そういうものをちゃんとすくい上げていくようなシステムがないと、子供たちがそのまま例えば大きな学校に行ってしまうというふうになってしまうのは、ちょっと私としては心苦しいというのがありますので、それも含めて子供たちの意見をぜひ聞いていただければと思います。

私の一般質問は、ではこれで終わりにしたいと思います。

○議長（倉持 功君） それでは、答えをお願いします。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、枝さんのご質問にお答えします。

子供たちの気持ちとか、親御さんの気持ち、そこは丁寧にやっていきたいというのは、まずお話をさせていただく中で、境町特殊なのは、先ほど言った大きな学校にと言うのですが、大きくないのです。もう猿島小学校と森戸小学校、1校、1つのクラスを維持するのもやっとぐらいになってしまっているのです。

もう一つ特殊なのは、大体そのお子さんたちって、意外にはなぶさの頃は同級生だったりするのです。はなぶさには猿島と森戸の子が多くて、その子供たちがそのまま上がっていくとか、そういったところもあるものですから、先ほど言った不安な子たち、そういったところは丁寧にしますし、先ほど言った5年ありますので、それよりもあそこに行きたいなという魅力をつくってあげればいいわけです。あそこの学校に行くと、こういうのがあるのだとか、あそこの学校に行くとこうだとか、友達に会えるとか、もしくはもう今のうちから猿島小と森戸小の交流で、例えば僕は常々静小学校に言っているのですけれども、修学旅行11人と

かで行くのです。11人ですよ、修学旅行。11人。だったらもう中学校に上がるの分かっているのだから、境小学校と一緒にとかできないのかとか、11人だからこそこできる修学旅行もあるけれども、そうではなくて、やっぱり森戸と猿島1校ずつに修学旅行やるなら、2クラスです、昔で言えば。昔で言えば2クラス。2クラスの修学旅行なんてできるではないですか。そういうのも提案をして、やってくれないですけれども。やっってはくれないです。静小は静小独自のとか言われてしまうからやってくれないのですけれども、そういうことができると思うのです。だから、事前からもうそうやって子供たちが融合していくようなことをしっかりと行政が手助けしてあげれば、そういった不安もなくなるし、「ああ、もう一回あの何々ちゃんと同級生になれるんだ」とか、そういったところもあるので、やっぱりそこは子供たちにあの学校に行くところなのだという、もう少し魅力づくりをつくってあげると違うのかなというふうには思っているし、意外にそれを言うと、小学校6年生から二中に行ったときに、同じことが起きるわけです。二中の生徒は結構真面目なものですから、すぐおとなしくて。一中が駄目だと言っているわけではないですよ、母校ですから。ですが、二中非常に真面目な子多いものですから、非常にそれは逆に言えば、そういったところが多分昔の遊ぶテリトリーで、猿島と言っても、森戸にもう近接している。もう例えば木村さんのところのすぐこっち側の通りなんかも、あれ猿島小学校ですね、こっちの中大歩だの、あの内門新田辺りは。でも、もうくっついているから友達同士で、実は親があれで遊んでいたりと、そういうやっぱりコミュニティーの部分で森戸とか猿島って強いと思うのです。やっぱり町なかは引っ越してきて、友達いないとか、そういう人多いと思う。多いというか、そういうのもあって、大規模校になっているとかあると思うのですけれども、意外に猿島、森戸って、もう本当に集落に1人とか、もう子供が2人しかいないとかなので、どこの誰ちゃんちの誰の息子だとかまでみんなが分かるぐらいに実はなっていたりするのです、それが脇の行政区であっても、ああ、あれは何さんのうちの孫だとかと分かるぐらいになっているので、そこまで多分大規模校という感覚が実は地元にはないかもしれないので、その辺でも枝さんが言うように、丁寧な、子供たちが不安にならない、それか親御さんたちも不安にならない。そして、その5年間、5年間から6年間かかるでしょうから、そのときに「ああ、造ってよかったな」と思われるような、そういう学校になっていくと、中学校にしても。違うのかなと思うので、この5年間、皆さんもあと任期としては最低でも2年から2年半ぐらいあるのですか、ありますから、その中でしっかりとこういうところを手当てしていきましょう、こういうふうにしたらどうですかという提案をしていって、いい学校になればいいのではないかなというふうには思っているのです、何もよくなるようなことを町はやろうなんて一切思わないですから、そこは信じてもらえればいいなというふうに思っています。

○議長（倉持 功君） よろしいですか。

○3番（枝 史子君） はい。

○議長（倉持 功君） 以上で枝史子君の一般質問を終わります。